



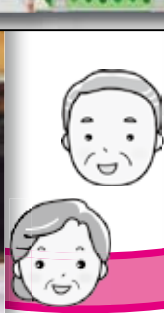
あいち Junior Red Cross 青少年赤十字

平成29・30年度 研究委嘱校 豊田市立梅坪小学校
人とのかかわりを通して、気づき・考え・実行する子どもの育成
 ～ 地域学校共働本部を活用して ～

地域を取り込んだ授業づくり



ソーシャルスキルの習得



言語スキルの向上

地域学校共働本部の活動

新しい令和の時代を迎え、社会が成熟していくといわれています。多様化やグローバル化が進む中で、震災や貧困等多くの困難な状況も生まれてきます。しかし、私たちは、多くの人々とのつながり、お互いに寄り添い、助け合うことができます。その精神を大切に、この新たな時代に向き合っていくことを切に願います。

そして、加盟校の子どもたちが学びの中で、自分たちができることを一生懸命考えて、みんなのために頑張っていく姿は、必ずや人道の実現に結びつくことを願ってやみません。

本年度総会にて、平成29・30年度の青少年赤十字活動研究推進校の研究実践が発表されました。推進校では、まず人道、公平、奉仕、世界性を捉え、気づく、考える、実行する青少年赤十字の態度目標を立て、そして対話を通して主体性や自主性、更には協調性を子どもたちの学びに向かう力として捉えたすばらしい実践発表がなされました。参加した加盟校の皆様におかれましても、大きく時代が変わろうとしていく今、青少年赤十字の活動の確かさを実感し、共感する中で、各学校のそれぞれの取組に向かっていることではないでしょうか。

令和元年度、青少年赤十字の活動の新たなスタートが切られました。児童生徒が「人道」の心を養い、日常生活の中で実践活動を通して、望ましい人格を自ら形成することを目指としています。「やさしさ」や「思いやり」の心を引き出し、育てていく青少年赤十字の活動の役割において、加盟校では様々な教育活動を学校の中に取り入れていただき、感謝を申し上げますとともに、敬意を表する次第であります。



中 谷 眞 人

(碧南市立大浜小学校長)

青少年赤十字指導者協議会小中会長

青少年赤十字の確かな実践

各地区の活動状況

刈谷・安城地区

刈谷・安城地区（知立・高浜・碧南・西尾を含む）では、小学校47校、中学校21校の合計68校が加盟しています。6月14日に第1回刈谷・安城地区青少年指導者協議会を刈谷市社教センターで開催し、今年度の事業計画等について協議しました。

○刈谷・安城地区トレセン

今年度は、新装された碧南市の勤労青少年水上スポーツセンターに会場を戻し、7月25日と26日の1泊2日で小学生を対象に実施します。子どもたちに赤十字活動の重要性を啓発します。



地区トレセン「ワークショップの発表」

○実践報告集の作成

地区活動の活性化を図るため、年度末に各校の特色ある活動を冊子にまとめ、情報交換や今後の活動の参考にします。

豊田地区

豊田地区は、市内すべての小中特別支援学校104校が青少年赤十字に加盟しています。各学校は、次の4つの活動を進めると同時に、学校独自の特色ある取り組みも進めています。

○地区トレセン

小中学校から各1名の代表児童生徒が参加し、市の総合野外センターでトレセンを行っています。令和元年度は1泊2日で、冬に行います。

○豊田市社会福祉大会

各加盟校の特色ある青少年赤十字活動をボードにまとめて展示し、広く市民に知っていただく機会にしています。

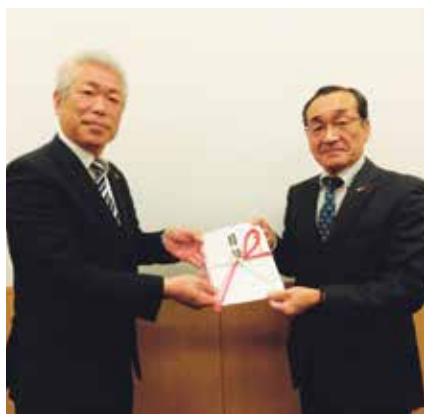
○実践活動報告集の作成

各加盟校の活動を報告集にまとめ、互いの情報交換や今後の活動の参考にしていきます。

○募金活動

各加盟校は、海外国内救援活動に積極的に取り組んでいます。

お年玉募金は豊田市独自の活動で、主にネパール、バヌアツの2国と国内で被災された方々への復興支援に使っています。



お年玉募金贈呈式

高校部会

高校部会では、月に1度のメンバー委員会（役員会・機関誌委員会）を開催しています。役員会では、メンバー連絡会にてボランティア時に役立つスキルアップ講習として、「車椅子体験」を実施しました。機関誌委員会では、災害への意識を高めてもらうため、4月に見学した名古屋大学減災館の内容を活かした「災害への備え」をテーマに機関誌を作成しました。このように、メンバー委員会では、「高校生の私たちに何ができるか」という視点を持ち、態度目標である「気づき・考え・実行する」を実践しています。

また、毎年夏休みに行われるリーダーシップトレーニングセンターでは、非常食（ハイゼックス炊飯）体験や、期間中に学んだことをもとに各学校へ戻ってボランティア活動を企画するワークショップに力を入れて取り組みました。この経験を活かし、各学校での活動の活性化へつなげていきます。



ハイゼックス炊飯体験

名古屋地区

令和元年度の名古屋地区指導者協議会総会を、6月13日（木）にルブラ王山で開催し、新役員及び本年度の事業計画を決定しました。

○指導者研修会

名古屋地区指導者研修会を、8月5日（月）に開催し、国際人道法や名古屋地区トレセンに関する研修など、学習を深めます。

○名古屋地区トレセン

8月6日（火）7日（水）の2日間、名古屋市総合社会福祉会館を会場に名古屋地区トレセンを行います。約30名の小中学生がH.R.ごとに分かれて、福祉体験や国際交流活動を行います。今後、学校でJ.R.C.の精神を生かすことができるよう、充実した2日間になるように準備を進めています。



名古屋地区トレセン



国際交流活動

尾張地区

6月18日(水)、令和元年度尾張地区青少年赤十字加盟校総会・校長連絡会が開催されました。総会では、協議会会長である加藤正彦校長先生のご挨拶の後、本年度の年間計画について協議されました。承認された事業は次の通りです。

○尾張地区トレセン

期日 7月25日～26日

会場 春日井市少年自然の家

○発表交歓会・指導者研修会

期日 12月24日

会場 北名古屋市文化勤労会館

総会・校長連絡会では、愛知県支部青少年赤十字課青少年係長の辻ノ上実友希様より「青少年赤十字の活動について」の説明がありました。

尾張地区は、現在、幼・保を含めて195校・園が加盟しています。今後も加盟促進と共に、学校生活のさまざまな場面で、青少年赤十字の態度目標である「気づき、考え、実行する」ことのできる児童生徒を育む活動を推進していきたいと思っています。



トレセン「フィールドワーク」

知多・海部地区

5月21日(火)にあま市美和文化会館において、知多・海部地区青少年赤十字指導者協議会総会を開催しました。そこで次のとおり、本年度の事業計画が承認されました。

○知多・海部地区トレセン

期日 7月27日～29日

会場 美浜少年自然の家

○指導者講習会・児童生徒交歓会

期日 12月25日

会場 津島市生涯学習センター

総会後の研修会では、県支部青少年赤十字課青少年係長の辻ノ上実友希様から「日本における青少年赤十字の活動」という演題でご講演いただきました。いくつかのスライドを見せていただきましたが、楽しく聞くことができました。

知多・海部地区では、現在、171校が加盟をしています。今後も加盟促進とともに、学校生活のさまざまな場面で、「気づき、考え、実行する」ことのできる児童生徒が増えていくよう、活動の推進をしていきたいと思っています。



知多・海部児童生徒交歓会

東三河地区

6月14日(金)に、令和元年度東三河地区青少年赤十字指導者協議会総会・研修会を豊橋市教育会館で開催しました。平成30年度事業報告・決算並びに令和元年度役員と事業計画・予算等が承認されました。本年度の東三河地区加盟校は、小学校が1校増え、小学校47校、中学校17校、合計64校となりました。

研修会では、日本赤十字社愛知県支部より青少年赤十字課主事の佐藤菜津美様を講師としてお招きして、「青少年赤十字活動」についてお話しをしていただきました。各種研修会や防災教材の活用 of 仕方を教えていただき、参加者からは「ぜひ本校でも実践してみたい」という声が多く聞かれ、大変有意義な会となりました。

2月には、「青少年赤十字活動実践集」の発行を予定しています。各校の今年の実践をまとめ、次年度の活動に生かしていきたいと考えています。今年も各小中学校で「気づき、考え、実行する」児童生徒の育成を図っていきます。



全校集会「気づき・考え・実行しよう!」

岡崎地区

5月21日(火)、岡崎地区小中学校指導者協議会総会・研修会が開催され、本年度の役員や活動計画が承認されました。研修会では、岡崎市立下山小学校校長、手島秀樹様より、「青少年赤十字と学校教育」と題してご講演いただきました。

今年度の主な活動は次の通りです。

○地区トレセン

7月30・31日(火・水)

市内全ての小中学校から各1名の参加で実施します。事前にトレセンスタッフの研修の機会を設け、地区トレセンがより充実した2日間となるように進めています。



岡崎地区トレセン「ホームルーム」の様子

○1月「JRCC岡崎だより」発行

総会・研修会、トレセンの様子のほか、各校での特色ある青少年赤十字活動を紹介します。

○2月「実践活動文集」発行

トレセンに参加した児童生徒が、各校で実践した活動の成果と感想をまとめ、実践活動文集として発行します。



私とJRC

愛知県立南陽高等学校

教諭 水野 真悠子

私とJRCとの出会いは、前任校で指導者講習会に誘われたことがきっかけです。合宿に参加してJRCの理念である「気づき・考え・実行する」という魔法の言葉を教えていただきました。そこで得た知識や体験を学校の文化祭で防災教育として生徒や保護者に体験してもらいたいと思い、ハイゼックスを用いた炊き出しの教室を開き、被災した時に役立つ「ご飯をおいしく炊ける方法」を教えることができました。参加した方から「ハイゼックスの袋でご飯が炊けることの驚き」や「簡単にご飯を手にすることができた」と



トレセンでの話し合いにて

高い評価をいただきました。その後、高校トレセンに指導者として参加し、生徒達に魔法の言葉をプレゼントしています。

支え合って生きていく

名古屋市中桜丘中学校 3年

ノア 柚子姫

桜丘中学校では、毎年「NHK海外たすけあい」募金を行っています。この活動は、「不自由なく毎日を過ごしている私たちとは違い、海外には、生きることさえ難しい人たちがいる」ということに気づき、自分たちにできることは何かと考え、行動した先輩方から始まりました。この考えに賛同し、今でも募金活動を行っています。私たちはこの良き伝統を守っていくだけでなく、国内の被災地への義援金を集めたり、校外で清掃を行ったり、自分たちにできることを常に考え、様々な活動を主体的に行っています。

私たちは家族や地域の方、学校の先生など、多くの人たちに支えられて生きています。そんな私たちも誰かを支えることができます。こうしてみんなが支え合って生きていけたらいいなと思います。私も生徒会執行部の一員として、これからも様々な活動を自分たちで考え、実行していきます。



NHK 海外たすけあい募金

未来につなげる

犬山市立今井小学校 5年

奥村 美諭

「今井の緑を守りたい。」
そんな思いが、私の頭をよぎりました。私がつまっている今井小学校は、全校児童が24人です。今井の緑は地域みんなの宝物です。今井小は犬山市内で唯一、「みどりの少年団」として活動しています。森に看板や果箱を設置し、緑の大切さを呼びかけています。

また今井小の子どもは地域の方と触れ合う機会が多くあります。地域のため、何かできることを考えたとき、うかんだのは「クリーン活動」でした。これは今井小の昔の先ばいが緑を守るため地域の方に呼びかけて始めた活動です。子どもからお年寄りまで協力して行います。地域一体となり、取り組む姿を見ると嬉しくなります。中学生になっても参加していきたいです。

今、私にできることは小さなことかもしれないかもしれません。でも一生懸命取り組む姿を後はいや地域の方に見ていただき、これからの未来につなげていきたいです。



今井区クリーン活動

ぼくたちにできること

東海市立名和小学校 6年

横尾 三四郎

「ペットボトルキャップで人の命が救える」

そのことを知ったのは、以前児童会がキャンペーンとしてペットボトルキャップを集める活動をしたときでした。このときには「ぼくたちが普段ゴミにしているもので人の命が救えるんだ」と驚きました。校長先生が、「命を大切にしてください」と朝会や終業式などでお話をしてくださいます。災害や交通安全を通して命について考える機会もたくさんあります。自分たちだけでなく、世界の人の命も同じように大切にしたいと考え、自分たちもこの活動をしようと思うようになりました。

活動を始めると、たくさんの子が協力してくれて、約4万3千個のペットボトルキャップが集まりました。50人以上のワクチンを作ることができるとわかり、自分たちで考えて、行動したこの活動で誰かの役に立てたと思うと、とてもうれしくなりました。

これからも、「気づき、考え、実行する」というJRCの態度目標を心にとめて、ぼくたちにできることを実践していきたいです。



命を救うペットボトルキャップ

自分たちから防災を学ぶ

岡崎市立竜南中学校 3年

千賀 日菜子

竜南中学校では、「防災フェスタ」を行っています。3年生が総合的な学習の時間を使って防災について学び、知識や技能、自分たちが考えた防災の提案を1・2年生に発表するものです。昨年度私は防災食と自宅以外で地震にあった場合に備えての発表を聞きました。保存性の高い乾パンや救助までの間に必要な水の量、食器を洗わずに清潔に繰り返し使うアイデアなどとても興味深く学ぶことができました。

また、買い物で外出している時に大きな地震が起きた場合、冷静に周りを見て行動することや店員さんの指示に従うこと、何より自分の命を第一に考えて行動することを、クイズ形式で分かりやすく学ぶことができました。

この防災フェスタを通して学んだことを次の後輩たちに伝えていくとともに、私たち中学生が地域の防災に関わって、自分たちにできることをより一層考えていきたいと思っています。



先輩から学ぶ「防災フェスタ」

地域に愛される学校

蒲郡市立形原中学校

教諭 竹内 朋

「地域に愛される学校」を目指し、本校生徒会は、形原の町に貢献できる活動が多く行っています。その中の一つに「春日桜会ボランティア」があります。

春になると多くの人が訪れる桜の名所、春日山。春日山を守る桜会の方々が剪定した桜の枝を運び、山の整備のお手伝いをしています。この活動には、本校JRC委員会を中心に、毎年全校生徒の約三分の一が参加します。

「重たいから僕が運びます」「まだ枝が残っているから手伝おう」と、できることを考え動く生徒の表情は爽やかで、誰かのために行動することの喜びを感じていることが伝わってきます。

「地域に愛される学校」を目指す中で、生徒の「気づき・考え・実行する」力が高まっています。今後、本校の特色を生かした活動を進め、「気づき・考え・実行する」生徒を育成していきたいです。



春日桜会ボランティア

プリキユー精神をもった私たちができること

刈谷市立刈谷東中学校 3年

栗山 晟

私たちの刈谷東中学校では、校訓に「プリーズ」、「サンキュー」、「エクスキューズミー」の合成語である「プリキユー精神」を掲げており、それに基づき、日々生活しています。刈谷東中学校は環境美化に対する意識がとても高く、学校だけではなく、私たちが住んでいる町もきれいにしようという思いから、「プリカン」という活動を行っています。このプリカンとは、プリキユー精神をもって環境美化に取り組むという意味をもっています。活動内容は、月に一度、通学路に落ちているゴミを拾いながら学校に登校するというボランティア活動です。今年度最初のプリカンでは、五百名近くの生徒が参加しました。これだけ多くの人数が集まるのは、素敵なことだと思います。きれいな町になるようにという思いをもつて、通学路や公園に落ちているゴミや側溝にたまっているゴミなどを丁寧拾うことができました。プリキユー精神には、周囲に思いやる気持ちが大切であると思っています。私たちも学校生活でこの心を養い、プリカンへと繋がっています。プリキユー精神をもった私たちは、学校という枠組みを越え、これからも地域をきれいにしていくことができます。



ゴミ回収

地域性を活かした防災訓練

豊田市立寺部小学校

教諭 竹谷 智子

豊田市立寺部小学校は、2019年ラグビーワールドカップやサッカーJリーグの試合会場になる豊田スタジアムに近い学校です。近くを一級河川矢作川が流れており、大雨が降ると洪水や川の氾濫が心配される地域でもあります。

そこで、地震や火災の避難訓練に加えて、水害対策避難訓練を実施しています。学区の中学校が避難場所になっているため、高学年児童と低学年児童がバディを組み、中学校まで徒歩で約10分の道のりを歩いて避難します。高学年児童は、周囲の交通安全や状況に気を配りながら避難します。

災害時には、地域で助け合うことも大切と考え、中学校だけでなく近くの交流館にも協力を仰ぎ、訓練を実施しています。地域で助け合えるよい関係づくりが災害時に生きてくると考えるからです。これからも地域や保護者を巻き込んだ訓練を行っていきたいと思っています。

また、子どもの判断力や知識も大切です。「まもるいのち ひろめるぼうさい」や「ちょこつとぼうさい」を活用した学習を進める予定です。



水害対策避難訓練

加盟校だより

津島市立天王中学校

本校では、毎年2年生が、心肺蘇生法とAEDの使用方法を学んでいます。練習用の人形を使って、全員が体験します。救急車が到着するまでに心臓を圧迫する回数や最低限の必要時間、そして心臓マッサージを続けるには、多くの人の協力が必要であることを学びます。

「ピッ、ピッ、ピッ…」リズム音に合わせて心臓マッサージを繰り返す生徒たち。何度も練習するうちに、リズムよく心臓マッサージができるようになりました。

体験後の生徒の感想には、「心臓マッサージの方法やAEDの使い方を初めて知った。いざというときは勇気を出して、自分から行動して、命を救いたい」「心臓マッサージはとても疲れた。難しそうだったけど、AEDが指示を出してくれたので、意外と簡単に扱うことができた」等、体験したからこそ感じ得た感想ばかりでした。



救急法講習会

今後も、緊急時に自ら判断し積極的に行動できる生徒を育てていきたいと考えています。
(平野 誠二)

豊橋市立芦原小学校

本校では、子どもたちが、JRCの精神である「気づき・考え・実行する」を実現するために、「気づき 考え 実行したよ掲示板」を作成しています。学年ごと強化月間を決めて、「気づき・考え・実行した」ことをカードに書いてもらい、JRC委員が掲示板の木へ貼っていきます。また、提出されたカードは、朝会や毎週のお昼の放送で紹介しています。ひと月で木に掲示されるカードは、およそ50枚になります。その後、カードが貯まっていくなかに様子が見えてわかるよう、透明の箱に保管します。全校の子どもたちが行った「気づき・考え・実行したよカード」で、木に花が咲いていく様子を子どもたちは嬉しそうに見ています。

掲示板を活用することで、子どもたちは日々の生活の中での問題に目を向けることができるようになりました。よりよくなるための方法を自分で考え、実行することまで意識して行うことができるようになってきました。掲示板は個人の記録としても残ることで達成感を得るとともに、よい気づきや行動を他の子にも広めることもできるのです。大きな役割をはたしています。



掲示板の木にカードを貼る JRC 委員

(藤田 紗矢)

岡崎市立北野小学校

本校では、大規模地震の発生を想定した防災訓練を毎年11月の第1日曜日に学区と合同で行っています。訓練は、家族と一緒に近所の公園などの一次避難場所へ集合し、学校へ避難するところから始まります。学校に着いてからは、クラスごとに各コーナーを回り、防災に必要な知識やスキルを身に着けます。内容としては、「地震体験」「煙道体験」「心肺蘇生法」「応急担架の組み立て」「消火器による初期消火体験」「バケツリレー体験」などがあり、児童は積極的に参加しています。昨年度は、「新聞紙で作ることができる防災スリッパ」のコーナーや「仮設トイレの展示」もあり、避難所生活の様子をイメージできるようになっていました。これらの経験は、どんな時でも「気づき・考え・実行」できる児童を育成するの役に立つと思います。児童だけでなく、大人も真剣になって学ぶことができ、この学区防災訓練は、北野学区のよい伝統です。これからも、地域で助け合う心が育まれていくよう、学区と学校で手を取り合っていきたいと思っています。



心肺蘇生法を学ぶ児童

(水越 健介)

安城市立安城中部小学校

本校では、福祉委員会や環境委員会の活動で、ベルマーク回収やリサイクル活動を盛んに行っています。また、企画委員会が実施する異学年交流「ペアと遊ぶタイム」を通し、異学年と楽しんで遊ぶ機会を設け、「気づき・考え・実行する」を実践しています。



お年寄りに学びの発表

総合的な学習の時間で、3年生で「やさしさ いっぱいとどけ隊」地域のおじいちゃん・おばあちゃんとともに、地域の高齢者とふれあう活動を実践しています。お年よりから話を聞いて、生活の知恵を学んで実践したり、車いす体験や不自由な生活の疑似体験をしたりする活動を取り入れています。一年のまとめとして、学んだことをお年寄りに発表したり、低学年の子に伝えたりする活動にも取り組めます。そこでは、人とふれあう温かい気持ちや育てるとともに、様々な人が共に生活していることを理解し、地域の中で人のためにできることを実践しようとする気持ちを高めています。

(後藤 達也)

豊田市立美里中学校

本校では、福祉委員会が中心となつて、年5回のWCP活動を毎年行っています。WCPとは、「World Connection Project」の頭文字をとった略称で、世界とつながる活動を意味しています。福祉委員が呼びかけを行い、登校してきた生徒から昇降口前でペットボトルキャップやアルミ缶、牛乳パックを受け取ります。集まった袋を協力し合い倉庫へ運ぶ生徒の姿には、自分達の活動が世の中の誰かを助けることにつながるのだという、誇りや達成感が感じられます。生徒達の強い思いからスタートしたWCP活動で、集めたペットボトルキャップは発展途上国で感染症に苦しむ子どもを救うワクチンの購入費用に、牛乳パックやアルミ缶の収益は、盲導犬育成費用に充てています。

また、本校では他にも様々なボランティア活動に取り組んでいます。全校生徒が地域の公園などを清掃する地域貢献活動は、4年目を迎えます。これからもJRCの態度目標である「気づき・考え・実行する」を合言葉に生徒達の主体性を大切にしながら、「継続は力なり」の精神でWCP活動や地域のボランティア活動に取り組んでいきます。

(小杉 友香理)



牛乳キャップの回収活動

愛知県立杏和高等学校

本校では、JRC部のメンバーが中心となつて、様々なボランティア活動に積極的に参加しています。その中の一つに高齢者施設でのレクリエーション活動があります。毎回の訪問時には、様々な工夫を凝らしたゲームや出し物を考えていきます。「どうしたら面白いのでウリングできるかな?」「指先を使う小物作りはリハビリにもなるよね」「ジグソーパズルはどれ位の大きさにしたら使いやすいかな?」など、生徒たちが訪問した際に気がついた改善点を高齢者の視点で考え、次回の訪問で活かすようにしています。

また、認知症対応型施設での体験から、適切な対応ができる知識を身につけたいという声があり「認知症サポーター養成講座」を受講しました。福祉の授業選択者も一緒に受講し、活発な意見交換を行い、次回の訪問に向けての自信をつけることができました。

初めは消極的な生徒も、先輩達と共に繰り返し活動していく中で、疑問に感じた事を質問し、より良い方法を考え、実践できるようになっていく姿にたくましさを感じています。(森 雅子)



手作りゲーム3



手作りゲーム2



手作りゲーム1

名古屋市立如意小学校

本校では、JRCの精神「気づき・考え・実行する」を大切に活動として、全校で学区内の大小8つの公園・遊園地、学校周辺及び学校内のごみ拾いと草取りを行っています。この活動は、児童だけではなく、保護者や地域の方々にも呼びかけ、協力しながら行っています。

この活動を通して、環境や人の役に立つとうとする意識、郷土愛・地域愛を全校で高めています。

また、縦割り活動も行っており、上級生が進んで下級生の面倒を見ています。1月には「なかよしフェスタ」というゲームを通して仲間意識を高める活動を行っています。紙コップ倒しや磁石的当てなど、児童が工夫を凝らしてゲームの運営を行います。(中西 宏行)



学区内の清掃

江南市立宮田中学校

本校の吹奏楽部は、毎年地域交流活動の一環として、校区内にある特別養護老人ホームへ慰問演奏に出かけています。事前に、ホームの担当職員の方から、入居しているお年寄りの皆さんが、この訪問演奏をとても楽しみにしていることをお聞きしました。そこで、喜んでもらえるようにお年寄りの年齢層や活躍させていたころの時代背景を考えて選曲し、一生懸命練習を重ねてきました。

今年は「演歌メドレー」「オクラホマミキサー」「美空ひばりメドレー」「スターファンタジー」などの曲の演奏と、「ピリブ」の合唱などを聴いていただきました。とりわけ「美空ひばりメドレー」では体を揺らしながら、リズムをとるお年寄りも多くみえて、演奏に聴き入っている様子が直接伝わってきました。お年寄りの満足げな表情や涙を流しながら聴き入る姿に触れたときは、吹奏楽部の生徒たちにとっても最高の時間となりました。(長岡 孝行)



老人ホーム慰問演奏



青少年赤十字登録式

全校で心をそろえます



海外助け合い募金

世界へ思いを伝えます

刈谷市立平成小学校



5年社会科学習

地域の先生から学びます



地域の防災訓練

役に立つ人になりたいです

平成29・30年度 研究委嘱校 刈谷市立平成小学校
「気づき、考え、実行する」を通して、学びに向かう力を高める子どもの育成
 ～教材との対話、自己との対話、他者との対話を通して～

防災教育

支部通信

4月23日(火)、名古屋市東区の「ウィルあいち」に、県下から350名を超える指導者が集まり、平成31年度愛知県青少年赤十字指導者協議会総会が行われました。総会に引き続き、研究推進校である、刈谷市立平成小学校、豊田市立梅坪小学校が2年間の研究成果を発表しました。

青少年赤十字の態度目標である「気づき、考え、実行する」をキーワードに、他者と主体的、意欲的にかかわる活動を通して、心豊かな児童の育成を目指した実践の報告です。会場の先生方も両校の研究実践に強い関心を持ち、熱心に聞き入っていました。

さて、愛知県支部では防災教育にも力を入れていきます。学習指導要領でも、特別活動において防災教育を行うように新たに明記されています。防災教育では「人を助けるためには、まず自分が生きなければならぬ」ということをしっかりと伝えることが必要となってきました。

愛知県支部作成の防災教育教材「いえまですごろく」は、小学校高学年を対象として、楽しく遊びながら防災の学習ができるものです。職員や奉仕団による出前授業も行っています。「ひとりでも学べる ちよこつとぼうさい」は名古屋地方気象台と共同で作成したものです。教師の手間をかけず、短時間で防災を学べる教材です。「まもるいのち ひろめるぼうさい」と関連付けて学習できるよう作成しています。

このように、愛知県支部では多忙な学校現場を考慮して、様々な防災教材の開発と出前授業を行っています。

令和元年度事業計画

*総会・実践発表会

(会場 ウィルあいち) 4月23日

*指導者のための国際人道法研修会

5月17日(会場 愛知県支部)

*高校指導者研究会・メンバー連絡会

5月25日・11月9日(会場 愛知県支部)

*支部主催トレセン

・高校トレセン

8月4～6日

・小中トレセン

8月22～24日

*指導者講習会

(会場 愛知県青年の家)

8月25～27日

*救急法講習会

(会場 愛知県青年の家)

8月25～27日

*指導者・高校生対象

8月19～21日(会場 愛知県支部)

*トレセン・指導者講習会検討会

9月7日(会場 愛知県支部)

*指導者講習会参加者研修会

1月18日(会場 愛知県支部)

*加盟校校長・指導者研究会

1月21日(会場 ウィルあいち)

*高校活動発表会

2月1日(会場 愛知県支部)

*研究推進委嘱校

(紙上発表)長久手市立東小学校

「自ら進んで学び続ける児童の育成」

「人との関わりから学ぶ活動を通して」

(紙上発表)豊川市立小坂井中学校

「自主の姿」の実現

「8つの姿を大切に授業」

加盟状況(令和元年四月一日現在)

○幼稚園・保育園

四二園

○小学校

六三七校

○中学校

二六五校

○高等学校

特別支援学校十二

一〇六八校・園

(加盟校合計)

一〇六八校・園

(メンバー総数)

四二八、一三五名

発行 令和元年七月一日

発行者 愛知県青少年赤十字指導者協議会

事務局 日本赤十字社愛知県支部

〒四六二一八五六

名古屋市中区白壁一五〇

TEL〇五二一九七一一五九九

FAX〇五二一九七一一五九九